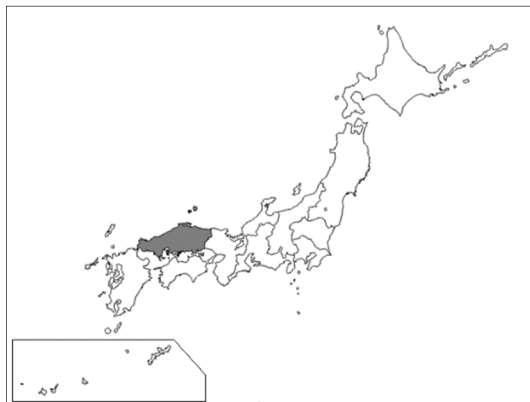


(9) 中国



中国地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

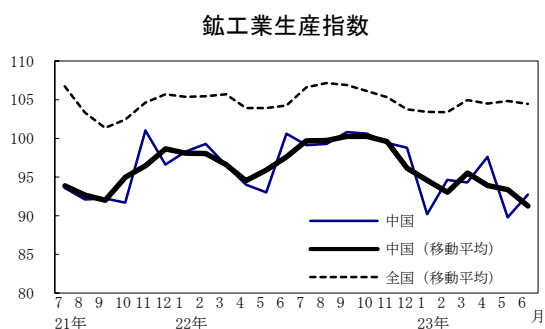
前回からの主要変更点

	前回 (令和5年5月)	今回 (令和5年9月)	
雇用情勢	持ち直している	改善の動きがみられる	↑

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

4－6月期の鉱工業生産は、前期比0.4%増となった。月別にみると、4月は化学が増加したこと等により前月比3.5%増、5月は輸送機械が減少したこと等により同8.0%減、6月は汎用・生産用・業務用機械が増加したこと等により同3.2%増となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1－3 月期	4－6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	23.2	2.9	▲4.1	6.4	▲23.6	4.4
汎用・生産用・業務用機械	13.3	▲23.0	6.4	6.0	3.3	8.0
化学	12.2	▲7.3	▲5.1	16.8	▲23.1	▲3.6
電子部品・デバイス	8.8	▲15.8	9.5	1.6	11.6	2.1
食料品・たばこ	6.8	▲1.7	3.9	7.3	▲3.7	▲6.0
鉱工業	100.0	▲6.6	0.4	3.5	▲8.0	3.2

(備考) 1. 2015年=100(全国は2020年=100)、季節調整値。
中国の最新月は速報値。
2. 全国及び中国の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 4－6月期、6月は速報値。

2. 個人消費の動向

個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4-6月期は前期比0.6%減となった。月別にみると、4月は前月比1.0%減、5月は同0.8%増、6月は同0.5%減となった。

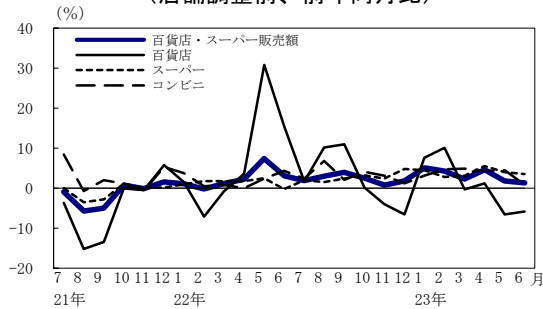
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4-6月期は前年同期比2.6%増となった。月別にみると、4月は前年同月比4.6%増、5月は同1.8%増、6月は同1.3%増となった。

百貨店は、4-6月期は前年同期比3.8%減となった。

スーパーは、4-6月期は同4.3%増となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



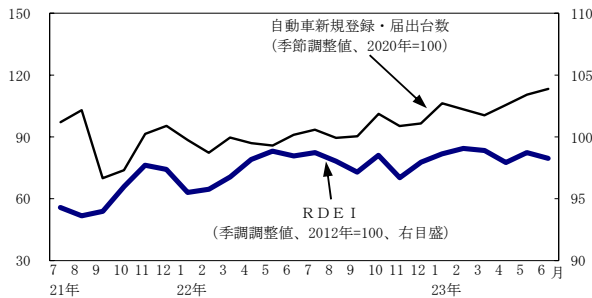
	2023年4-6月	2023年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	▲0.6	▲1.0	0.8	▲0.5
百貨店・スーパー(*2)	2.6	4.6	1.8	1.3
百貨店(*2)	▲3.8	1.2	▲6.5	▲5.8
スーパー(*2)	4.3	5.5	4.0	3.5
コンビニ(*2)	3.2	4.3	4.5	0.9
乗用車(*3)	24.2	19.0	30.0	24.4
(季節調整値) (*3)	6.2	4.9	4.9	2.5

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

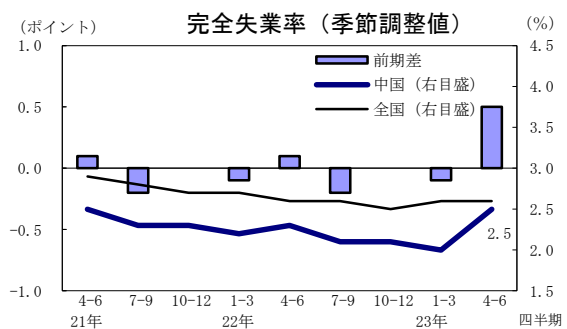
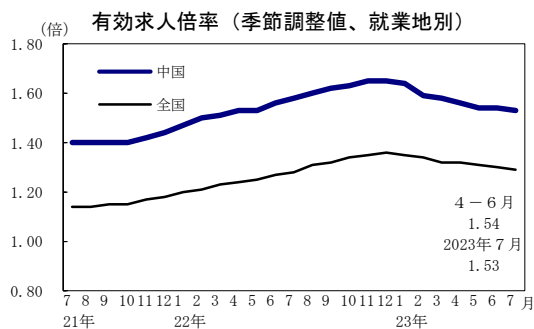
RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率は低下しているものの、前回の景気循環の平均的な水準にある (P10 参照)。一般労働者の定期給与は上昇している (P10 参照)。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和5年7月調査) 景気判断理由の概要

9. 中国

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連	□	・月の前半にバーゲンセールを開始したが、2度の大雨の影響で、来客数が少なかった。後半は、当館のイベントなどもあり、にぎわいもあった(百貨店)。	
		○	・暑い日が続いているため、エアコンなど季節商材の売上が増加している(家電量販店)。	
		▲	・暑いためか新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているためか分からないが、来客数が極端に減少している(美容室)。	
	企業 動向 関連	□	・異常な暑さと集中豪雨が発生したことで、物流に影響が出ている。販売数量は減少しているが、価格の上昇で売上は維持している(食料品製造業)。	
		○	・予定する物件数は多いが、発注のタイミングと技術者の稼働次第で状況が変わるリスクはある。物価上昇などについて、ある程度価格転嫁もできている(建設業)。	
		▲	・コロナ禍によるインフレや長納期化で、特に電子部品製造装置に先行発注の動きがあり、受注は堅調に推移していた。しかし、今年に入り、電子部品製造装置の受注は減少傾向で、半導体関連も在庫調整がみられ、受注は全体的に下向きとなっている(電気機械器具製造業)。	
	雇用 関連	□	・新規求人数、新規求職者数が共に高水準で推移しているものの、双方の条件の乖離が大きく、マッチングが進まない状況が続いている。足元では徐々に賃金の上昇が始まっているが、これまでのような企業業績の向上による賃金上昇ではなく、人手不足によるもののため、今後、企業業績にマイナスの影響を与えていく(人材派遣会社)。	
		○	・ボーナス時期で、転職活動が活発化しているため、職業紹介事業における問合せ数が前月比146%となっている(民間職業紹介機関)。	
	その他の特徴 コメント			○：全国旅行支援が終了し、一時期宿泊の利用が少なくなったが、夏休みに入り宿泊の予約が順調に増えてきている(観光型ホテル)。 □：一部のB to B企業以外に地方企業の賃金は上昇しておらず、物価高騰によって消費は鈍化しており、景気が上向き兆しが少ない(新聞社[求人広告])。
	先行き	家計 動向 関連	□	・来客数が持ち直し傾向であるが、エアコン需要が落ちると、売上が停滞する(家電量販店)。
○			・夏休み、お盆休みで8月の売上は良くなる。9~10月も秋のトップシーズンのため、来客数の増加に期待が持てる(観光型ホテル)。	
企業 動向 関連		□	・9月又は12月決算の企業から修繕工事程度の駆け込み受注はあるが、設備投資の域には達しておらず、まだ様子見状態が続いている(建設業)。	
		○	・景気全般としては、良くなる方向に推移している。ある程度の物価上昇が景気をけん引していくようになる(化学工業)。	
雇用 関連		□	・就職活動が一段落し、求人依頼も停滞傾向にある(学校[短期大学])。	
その他の特徴 コメント			◎：円安傾向が続くため、海外からの客の増加が期待できる。また、直近での予約が多かった3か月前と比べて、少し先までの予約が入りやすくなっている(都市型ホテル)。 ○：地域の祭りやイベントが4年ぶりに実施されるため、宴会や会食の増加が見込まれる(観光名所)。	

(DI) 現状・先行き判断DI(中国)の推移(季節調整値)

